

## 『神に信頼する幸せ』 エレミヤ書 17章5～9節 2015.3.29(日)

『主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。その人は、水のほとりに植わった木のように、流れのほとりに根を伸ばし…暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、いつまでも実をみのらせる。』エレミヤ 17:7～8

神の御心は私たちが祝福することだが、あなたは生活のあらゆる場面でその幸せを実感しているか？エレミヤ 17:9『人の心は何よりも陰険で…直らない』とあり、私たちが神の祝福から遠いことを告げる。「陰険(ア-コブ)」とは「押しつける・欺く」の意。私たちは神を押しつけ、その愛も赦しも慰め認めず、まるで神がないかのように自己中心に生きている！『…良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結ぶ…(マタイ 7:17～19)』。『良い木』とは『実を結ぶ木』のことで自然界には存在しない！『その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える(詩篇1:3)』。『植わった』は受動態で『水のほとりに植え替えられた木』の意！「悪い木」は、砂漠に生えたまま、葉も茂らず、実を結べない。『良い／悪い』は善悪の問題ではなく、神への信頼の有無のこと！「呪いの人生」とは、命の泉である神から離れ、頑張っているのに空しく、生きる意味を見失った人のこと！一方「祝福の人生」は、あらゆる場面で神を信頼するので、逆境や困難に関係なく、常に実を結ぶ(エレミヤ 17:5～8)。①呪いから祝福へ至る第一のポイントは、キリストを信じ、その罪と罰から救われたかどうか。イエス様は『私たちの代りに呪いとなられた(ガラテヤ 3:13)』。罪の奴隷(自己中心)の人生から、罪から救い、呪いを解いて下さるお方を礼拝する人生へと『植え替えられる』必要がある。②第二に、この世のものへの依存からの解放！主は言われた『たとえ全世界を手に入れても、あなた自身を失ったら何の得もない(ルカ 9:25)』と。お金も健康も趣味も仕事も、それを下さった神以上に執着するものではない。③そして最後に究極の祝福である「永遠」に対する備えを持つこと！私たちに命を与え、その故に慈しみ、幸せを備えて下さるお方を知り、その方に命を委ね、信頼して生きる時、そこに溢れるのは感謝のみ！